

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）

全国がん登録と連携した臓器がん登録による大規模コホート研究の推進及び高質診療データベースの為のNCD長期予後入力システムの構築に関する研究

（研究分担者 沖田憲司・札幌医科大学 消化器・総合、乳腺・内分泌外科・助教）

研究要旨

本邦におけるがん登録の現状としては、本年より開始された全国がん登録、主に外科系が中心として開始されたNCD、各学会における臓器がん登録などが混在しており、その有機的連携の在り方は未だに明らかではない。それぞれの登録においても、個人情報保護法やオプトイン、オプトアウトの問題、またデータの利活用の在り方など、多くの問題を内在している。本研究では、まずはその問題を領域ごとに明らかとし、その解決方法を検討することにより、今後の適切ながん登録体制の在り方を研究する。

A. 研究目的

本邦におけるがん登録である、全国がん登録とNCD、臓器がん登録における有機的連携における問題点を抽出することを目的とする。

B. 研究方法

現時点で、NCDと臓器がん登録との連携に関して、一定の問題があると認識している学会および研究会の代表より、その問題点を提示して頂き、共通の問題点などを抽出し、今後の方向性に関して討議を行う。

（倫理面への配慮）

本研究において、特に倫理的に問題となる項目はない。

C. 研究結果

全国がん登録と臓器がん登録の連携に関しては、全国がん登録の情報の使用に関して多くの制限があり、現時点での直接的な連携は困難であるという認識である学会が多かった。NCDとの連携に関しては前向きな学会が多かったが、予後データの扱いの問題、生データを学会として管理できないという問題が、どの領域においても大きなハードルとなっているとの結果であった。また、そもそもがん登録において、どの程度の悉皆性が求められるのか、がん登録の目的そのものから考えていく必要があるとのコンセンサスを得た。

D. 考察

がん登録における問題として、まず個人情報保護法下での、患者情報の収取に関して、各学会で認識の差があることが明らかとなった。収集すること自体の法との整合性や、得たデータの2次利用の可否に関しても各学会間で認

識に大きな相違を認めた。オプトイン、オプトアウトの問題も含め、データ収集および利用に関して、更に適切な法整備もしくは、統一した解釈が、多くのがん登録事業の有機的連携の第一歩となると考えられた。

E. 結論

現在の体制では、全国がん登録およびNCD、臓器がん登録の有機的な連携は困難である領域が多いのが現状である。更なる法整備もしくはデータの取り扱いに関する統一された解釈が求められる。

F. 健康危険情報

特記事項なし

（分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入）

G. 研究発表

1. 論文発表

Takeuchi H, Saeki T, Okita K, Hirata K. et al. Japanese Society of Clinical Oncology clinical practice guidelines 2010 for antiemesis in oncology: executive summary. Int J Clin Oncol . 2016 Feb;21(1):1-12.

2. 学会発表

特記事項なし

（発表誌名巻号・頁・発行年等も記入）

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得

特になし

2. 実用新案登録

特になし

3. その他

特記事項なし